

バイオマス取組事例概要

九州

(バイオマス活用協議会会長賞)

- 応募主体 財団法人沖永良部農業開発組合
- 都道府県・市町村 鹿児島県和泊町
- 取組分野 堆肥化

取組概要

さとうきびの葉、家畜排泄物及び製糖工場ライムケーキから堆肥を製造。

(財)沖永良部農業開発組合は、沖永良部島の農業経営の規模拡大と近代化の促進を目的に昭和46年に設立している。平成9年にえらぶ堆肥センターを建設し、さとうきびの副産物である葉(ハカマ)と家畜排泄物を有効に利活用している。

和泊町、知名町から排出されるさとうきびの葉(2,000t/年)、家畜排泄物(2,000t/年)、製糖工場の汚泥(1,000t/年)から堆肥を製造(3,000t/年)し、JA、花き流通センターに販売している。纖維分の多いさとうきびの葉を原料とした堆肥は、この地域の固層の比率が高い土壤に適した堆肥のため、地域の農業の生産性の向上や有機物循環型農業の確立等、地域の農業の発展に寄与している。

さとうきびの葉と家畜排泄物を主な原材料として製造するこの堆肥は、鹿児島県堆肥コンクールにおいて、平成15年度、平成16年度と2年連続で最優秀賞である県知事賞を受賞している。

堆肥センター全景



さとうきびの葉を使用した堆肥



ハカマ



ハカマと畜ふんをヤードで混合



切り返し作業中

